

現地調査結果（アオサギ、藻場、移動阻害状況）

平成22年1月19日

中部地方整備局 木曾川下流河川事務所

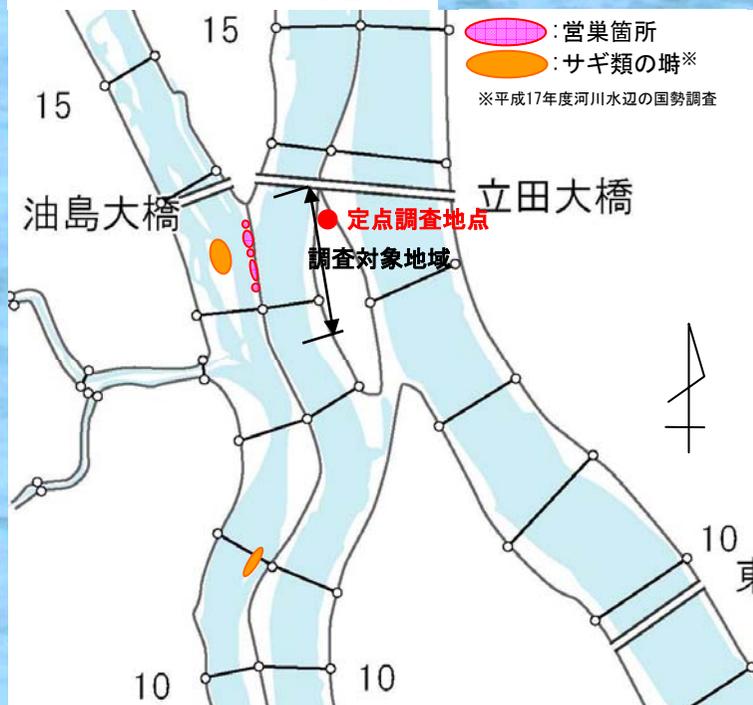
# 現地調査結果1：サギ類生息地調査

## ■調査目的・調査方法：

- 国の史跡に指定されている千本松原のアオサギの営巣実態を把握し、**アオサギと千本松原の共生の方向性**を確認するため、現地調査を実施した。
- 現地調査は、**営巣地を確認するための踏査**を行うとともに、長良川の左岸堤防上に**定点を設置し**、その地点より千本松を観察し、**クロマツ上に止まるサギ類の位置・個体数を記録**した。  
(調査日：平成21年7月)



## 【調査位置と営巣確認箇所】



## ■調査結果

- 調査した1,265本のクロマツのうち、30本のクロマツに53個の巣を確認。そのうち調査期間中28の巣で若鳥の利用を確認。
- 平成17年度の河川水辺の国勢調査では、揖斐川の2箇所(左図参照)でサギ類のねぐらが確認されている。

項目		調査結果		
営巣状況	巣が確認されたクロマツ本数	30本 (1,265本中)		
	巣数	53巣(うち、28の巣で若鳥が利用)		
定点調査状況	確認個体数	成鳥	若鳥	合計
	7/29(夕方)	3(0)	34(25)	37(25)
	7/30(早朝)	5(2)	36(19)	41(21)
	7/30(午前)	0(0)	25(13)	25(13)

※ ( ) は巣内で確認された個体数を示す。

## アオサギの確認状況



## ■考察および今後の対応方針：

- 本地域は、成鳥がねぐらとして利用する地域ではなく、**繁殖期(3月末～6月下旬)**に主に利用していると考えられる。
- アオサギと千本松原の共生の方向性について、特にフンによるものと考えられる立ち枯れは認められず、現時点ではアオサギの糞害によるクロマツへの影響はないため、**当面は継続監視**する。
- 水辺の国勢調査で確認されている**サギ類のねぐらについては保全**する。

# 現地調査結果2：藻場調査

## ■調査目的・調査方法：

- 木曾三川下流域において、藻場の分布状況に関する基礎資料がほとんどないため、**概略の水草分布、種類を把握**するための現地調査を実施した。
- 現地調査は、主に陸上、船上から**目視等による概略調査**を実施した。また、河川環境が変化する区間について代表箇所を選定し、採取による補足調査を実施した。（調査日：平成21年10月）

## ■調査結果

- 藻場を構成する種は計17種**が確認された。
- 木曾川12.4km上流**（右岸のケレップ水制群）、**長良川6.4km上流**（長良川河口堰上流の湛水域）、**揖斐川12.0km上流のヨシ原、ワンドなどの止水域**に、**セキショウモ**などが**広域的に確認**されたほか、**揖斐川河口域**では、**コアマモ**などの汽水性の沈水植物が確認された。

### （木曾川）

- 12.4km上流のケレップ水制群にクロモ、セキショウモなどの藻場が分布

### （長良川）

- 河口堰の湛水域では、ササバモをはじめとする重要種が、三川の中で最も多く確認

- 19.0～28.4kmの上流区間では、主にクロモ、セキショウモ、**オオカナダモ**等で構成される藻場が帯状に発達

### （揖斐川）

- 20.4～25.0kmでは、主にクロモ、セキショウモ、**オオカナダモ**等で構成される藻場が帯状に発達

- 河口域にはコアマモが分布

### 確認された貴重種一覧

NO.	種名	環境省 レッド 2007	愛知 レッド 2009	岐阜 レッド 2001	三重 レッド 2005
1	コウホネ		EN		
2	マツモ			NT	
3	コウガイモ		VU		DD
4	センニンモ		EX		
5	ササバモ		VU		
6	コアマモ				VU
7	イバラモ		VU		VU
	計	0	7	7	7

注) レッドデータのランク  
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧ⅠA類、  
EN: 絶滅危惧ⅠB類、CE: 絶滅危惧Ⅰ類 (三重レッド)  
VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足

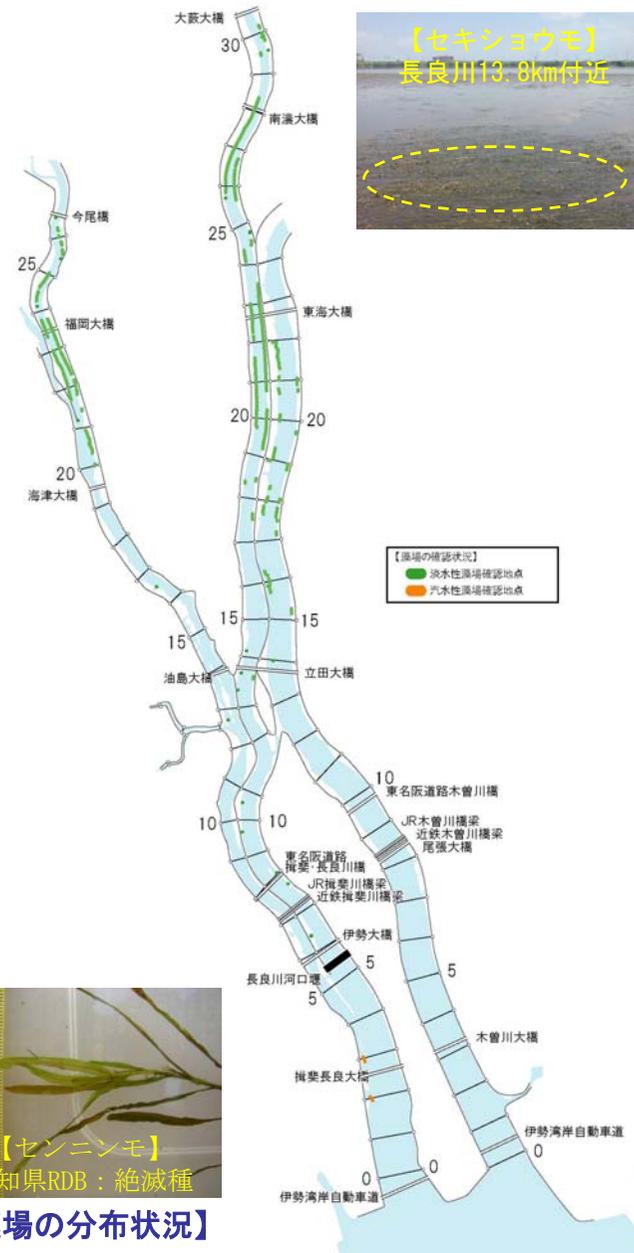
### 確認された外来種一覧

NO.	種名	外来種
1	フサジュンサイ	要注意
2	オオカナダモ	要注意
3	コカナダモ	要注意
	計	3

注) 外来種「特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律」  
特 定: 特定外来生物  
要注意: 要注意外来生物

## ■考察および今後の対応方針：

- 長良川、揖斐川の20km付近より上流には、**要注意外来生物**である**オオカナダモ**を含む藻場が帯状に発達しているが、**外来種**も含め、これらの藻類は魚類等の産卵場所等の役割を果たしているため、**当面は継続監視していく。**



# 現地調査結果3：移動阻害状況調査

## ■調査の目的・調査方法：

- ▶本支川の連続性の確保状況を把握するため、流入支川等の樋門・樋管等を対象に魚類の移動阻害状況を調査した。
- ▶移動阻害状況調査は、樋門・樋管等前面の水位差が年間の半分程度10cm以上ある箇所を移動阻害が生じる箇所とし抽出した。また、現地の状況を把握するために現地調査を実施した。（調査日：平成21年10月）
- ▶なお、移動阻害が生じる水位差とした水位差10cmは、カワヨシノボリなどの小さな個体にも配慮し設定した。

## ■調査結果

- ・木曾三川下流部全体的には魚類等の遡上環境は概ね良好（右図中の青表示）であるが、岡谷第一排水樋管等の9つ（右図中の赤表示）は、魚類の移動阻害となっている可能性がある。

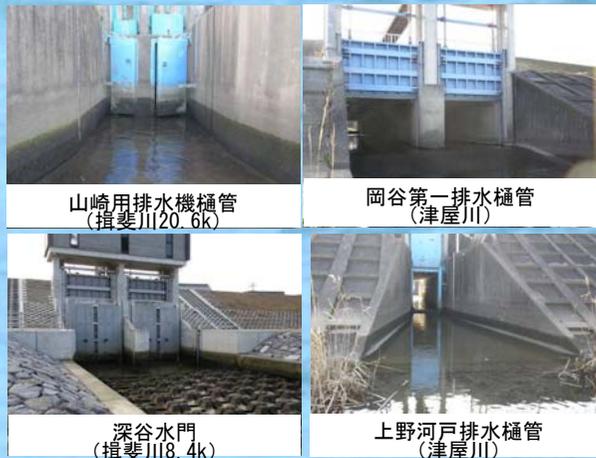


図18 移動阻害となっている箇所

## ■考察および今後の対応方針：

- ▶移動阻害が考えられる樋門・樋管のうち堤内側の水路が側溝のような単調な環境である施設は、優先度が低いことから、深谷水門、山崎用排水機樋管、上野河戸排水樋管、岡谷第一排水樋管の4施設では優先度が高い。
- ▶これらの魚類等の移動阻害が考えられる箇所については、今後詳細調査を実施し、対応について検討する。

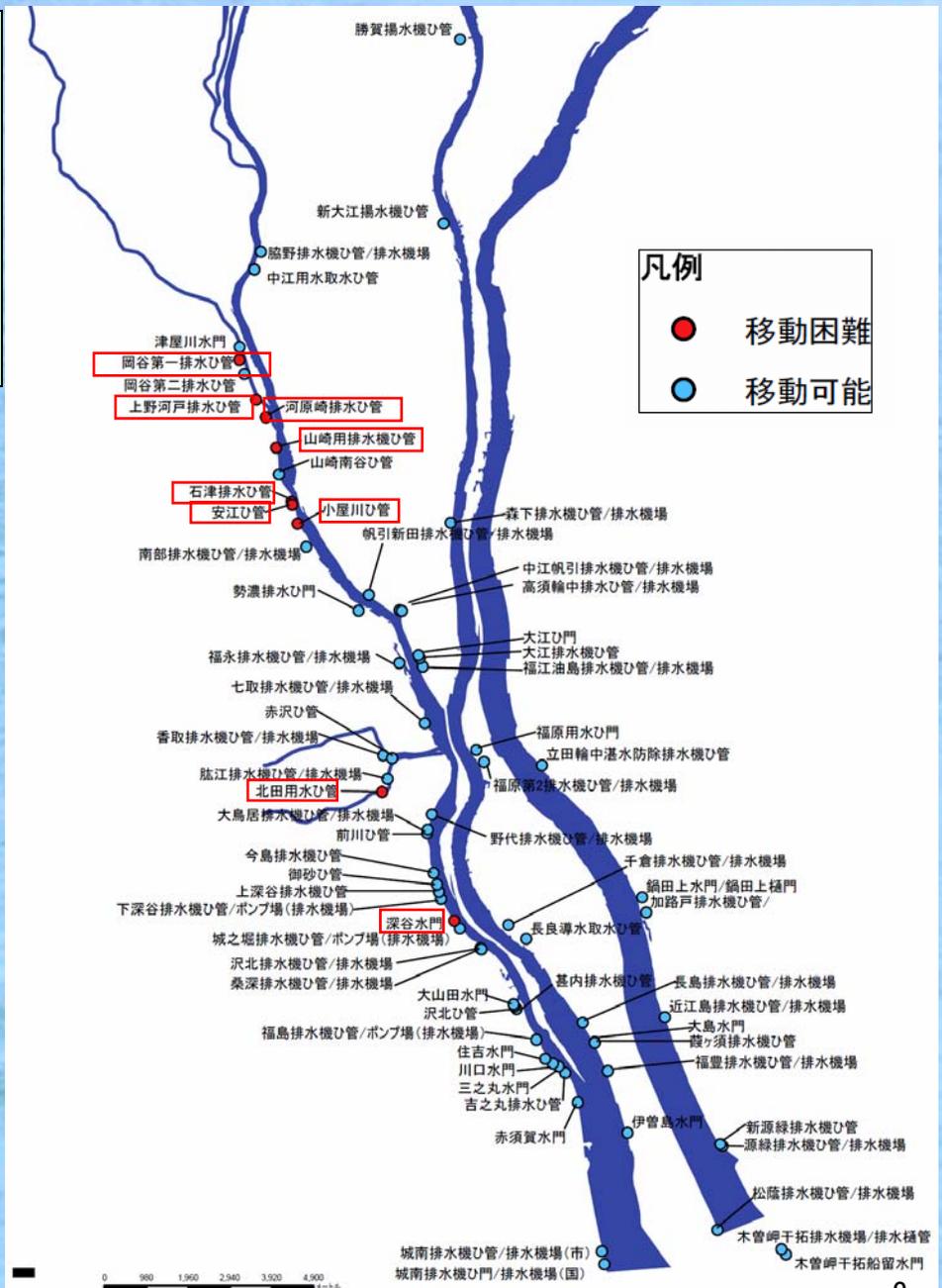


図19 樋門・樋管の移動阻害状況